



# ブラジリアの風

## Vento de Brasília

### ～南十字星の下で～

2019年スタートして早2ヶ月が過ぎますが、日本の皆様はいかがお過ごしですか。厳しい寒さを乗り越えて、春の兆しに安堵しておられる方々もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ここブラジリアは昨年の水不足とは打って変わって、恵みの雨で潤う日々、朝晩は冷んやり涼しく時折トンボを見かける秋を迎えています。月に一度の俳句会に参加するようになってから、今まで気にも留めなかった季節の移り変わりや季語にまつわる事柄に目が開かれています。

十字星きらめく夜半に母となり

この句を詠まれた婦人は、移民当初、夜空が見えるような隙間だらけの屋根の下で我が子を自宅出産した喜びを語ってくださいました。この日の兼題（事前に出される題：季語）の一つが「南十字星」、ブラジルの国旗やパスポートにも刻まれているこの星は、日本人移民にとっても特別な意味があるのだらうと感じました。

自ずと「主の十字架」が思い出され、俳句会のお一人ひとりの救いを祈らされています。毎回自作のニュースレターをお配りし、聖書のみことばを届けています。他の思想信条をもってその指導的立場にある方々もおられるので、配慮しながらですが、臆せず証しの生活を続けたいと願っています。

1月末には、隣りのミナスジェライス州ブルマジーニョで、鉱山ダムの決壊事故が発生し、汚泥の津波で死者150名、行方不明者182名を出す大惨事が起きました。これは大雨による自然災害でなく「人災」で、ダムの強度不足で突然ダムが崩落し、溜まっていた泥水が流れ出て、



南十字星



約10名のブラジリア俳句会

下流にあった多くの民家を飲み込みました。同様の事故が三年前にも同州であったのですが、結局のところ、ダム所有会社が自社の儲けのために脆弱で安価な材料を使用し手抜き工事をしたツケが回ってきたのです。しかも多くの市民を巻き込んで…。人間の底知れない愚かさ・罪深さを知らされます。義憤を覚えつつも、犠牲者のご遺族の慰めを祈るばかりです。

3月初旬のカーニバル期間、私たちはヒアショフンド教会のキャンプに参加し、「神の親友」とのテーマの下、静まり祈る時を過ごしました。世の友になるのではなく、罪を離れ、神にもっと近づき親密な交わりに生きることを迫られました。「心のすべて、たましいのすべてをもつてあなたに立ち返り」（Ⅱ歴代6:38）仕えていきますとの祈りに導かれています。日本の皆様のお祈りとご支援を心から感謝いたします。引き続き祈りの端にお加え下さい。あの「3.11」から8年が経つ日本と諸教会のために祈っています。

2019.3.8 浜田献、陽子

### 献金報告と感謝

献金者一覧(2019年1-2月)

新船橋礼拝教会、石神井福音教会、湖西礼拝教会、松戸福音教会、麻布霞町教会、くずは聖書教会、浜田良夫、蛭池聖書教会、鞭木由行、総和礼拝教会、町田南礼拝教会、原町礼拝福音教会、安城中央礼拝教会、矢作礼拝教会、西大寺礼拝教会、相馬礼拝福音教会、波崎礼拝教会、播磨礼拝教会、小平聖書礼拝教会（敬称略）

**231,190円** (1-2月合計)  
【2019年目標:160万円】